

□ アナリスト週間相場予想

		
江崎		
西		

Pick up News

- [注目スケジュール]
 10/13 米国休場
 14 ユーロ圏鉱工業生産指数、米財政収支
 15 ユーロ圏消費者物価指数
 米地区連銀報告、米小売売上高、米MBA住宅ローン申請指数
 16 米消費者物価指数、米新規失業保険申請件数
 17 ユーロ圏貿易収支
 米ミシガン大消費者信頼感指数、米住宅着工許可件数
 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



今週も白金から観察してみると、先週の週報で設定した目標値3000円に10/8日中の髭では届いた。しかしながら10/6からの日足に注目してみると今日(10/10)の前場までを含めて5本の日足が終値ベースでは3000円をサポートして引けており、波動計算の目標値であった3000円はやはり達成感による心理的サポートラインとなる事を意識しなければいけない。現状の日足はどう鼻頂みにみても上昇トレンドではない。しかしながらこのまま下げ渋る場合は売られすぎの咎め、自律反発といいかえても良いが大幅な戻り波動が突発的に起こる事を警戒しておくべきである。この10/6からの1週間で3000円所のサポートが形成されているのは明確である。よって3000円を確りブレイクダウンする事が無い限りは直近のはっきりしたレジスタンス3600円所(9/18)までの戻りを念頭においておきたい。具体的な戦略としてはロスカットラインを2986円(10/8)ブレイクダウン時に置いて買い方針を良いだろう。

金についてはボリンジャーバンドやRSI、ストキャやMACDからみても他銘柄のように極端なサインは無い。強いていうならこれらのオシレータ指標は押し目買いを示唆しているという程度である。10/2と3日の日足で形成しているギャップの上限2916円と本日(10/10)前場高値2939円をレジスタンスゾーンとし、10/6安値2726円をサポートラインと意識すれば2730円~2930円の200円程度の逆バリと考えておけばチャート上問題ないだろう。(10/10前引け現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

世界同時利下げでほっと一息つくことも許されず、金融市場は激震に見舞われている。世界の株価は底抜けし、一部の国では市場閉鎖への動きも出てきた。各国の中央銀行は連日のように資金を大量供給しているが、それがあっさり消化されるほどに、市場機能は麻痺してしまっている。銀行間の翌日物金利は高止まりしたままである。このような環境だけに、投資家の恐怖心を表すとされるVIX指数は過去最高となっている。まさに100年に一度の危機である。米国は銀行債務の全額保証と預金の全額保護を一時的に実施の意向とも伝えられており、矢継ぎ早に対策を打っている。それはそれで正しいのかも知れないが、常に向き合っているのは金融市場であり、实体经济のほうを見て景気対策を打つところまでは至っていない。これが投資家に疑念を抱かせ、米ドルをキャッシュで抱え込むという投資行動を取らせているものと考えられる。

そう簡単には凍りついた投資家マインドをあたためることは出来そうになく、これが金への資金逃避を促す構図は変わらないだろう。株価が反発に転じればドル建ての金価格にはマイナスだが、その際にはドル高・円安に振れる可能性が高く、国内相場への影響は限定的となろう。問題は白金のほうで、工業需要(自動車触媒需要の減少)が強く意識されている現状では買いにくい相場である。しかし、3,000円割れでの達成感と、金に対するサヤ修正が行き過ぎとの見方もあり、判断に迷うところだ。リスクを許容できるのであれば、押し目を軽く拾ってみる価値はある水準。ただ、その際にはテクニカルを頼りに撤退ポイントを決めて対処するように努めたい。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

許可RE0050(許可取得日08/10/10)